

「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保  
するシステムの整備」(リサーチ・アドミニスト  
レーションシステムの整備)事業  
～事業進捗状況評価～

京都大学

平成25年6月19日(水)



*KURA*

# (1) URA組織体制整備構想の進捗状況 (関連部局の相互連携によるシステム整備・改革)

総長、研究担当理事の強いイニシアティブのもと、先駆的なURAシステムを構築



## 京都大学URAネットワーク

教員・研究者が研究に専念・没頭できる環境を！

# (1) URA組織体制整備構想の進捗状況 (高度化・効率化に向けたURA組織体制の整備)

## 京都大学URAネットワーク構築事業(自主経費)

### 京都大学の7地区に**部局URAを21名配置**

- 本事業終了後の予定 ➡ 部局URA配置を**前倒し**で実現
- 研究者の**すぐ近く**で、きめ細やかな支援をする体制
- 全学を挙げて、研究推進体制の充実強化！



- ◆ 京都大学URAネットワーク運営協議会設置  
→ 京都大学URAネットワークポリシー策定
- ◆ URAネットワーク定例連絡会議開催(月1回)  
→ 議長: 学術研究支援室室長



# (1) URA組織体制整備構想の進捗状況 (学内の研究推進体制の中での機能、研究力強化への貢献)

## 学術研究支援

**各地区部局URA**と連携 ➡ 研究者ニーズに合致した外部資金獲得を支援

◆ 外部資金申請支援事業スキームの構築

→ JST戦略的創造研究推進事業(CREST・さきがけ)、総務省・戦略的情報通信研究開発推進制度(SCOPE)

## 産官学連携

**産官学連携本部**と連携 ➡ 業務分担・業務フローを確認

◆ 学術研究支援室・産官学連携本部・部局URA組織が連携 → 文科省・COI STREAM事業申請支援

◆ 本学研究シーズによるイノベーション創出支援

→ JST研究成果展開事業(FSステージ・探索タイプ)



## 国際関係

**国際交流推進機構**と連携 ➡ 国際共同研究を推進

◆ ワークショップ開催

→ ミャンマーYangon工科大(H24.8、H25.3)

サウジアラビアKing Abudlaziz大(H24.11、H25.3)

英国Bristol大(H25.1)

◆ スイス連邦工科大、国立台湾大との学術交流を企画中！



ミャンマーでのワークショップ

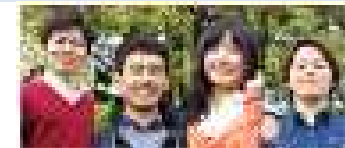
## 情報環境関係

**情報環境機構**と連携 ➡ 研究支援ツールを開発

◆ 研究・研究者情報の収集・統合

→ 研究者情報環境基盤整備事業(P-MAXプロジェクト)

教員を知るための  
学生による教員インタビュー！  
**P-MAXプロジェクト**



*URA*

## (1) URA組織体制整備構想の進捗状況（URA自身が企画・実施した業務事例①）

### <ビジョン>

1. 研究者と協同して卓越した知の創造に貢献
2. 日本版リサーチ・アドミニストレーション組織の先駆的モデル構築

### <ミッション>

1. 支援のための基盤形成（URAネットワークの構築）
2. 研究活動のさらなる加速のための支援（研究者支援体制の整備）
3. 研究成果の社会への還元を支援（研究者と社会との双方向のコミュニケーションハブ形成）

### <取り組み>

1. URA業務の周知と基盤整備を通じたURAシステムの定着
2. Pre-Award研究支援と支援体制整備
3. Post-Award研究支援と支援体制整備
4. URA室業務の評価体制の整備
5. URAのスキルアップ等



## 『科研費申請書の教科書』を作成、学内配布

- 申請書の書き方についてのポイントをまとめた虎の巻
- 申請書作成にあたっての心構えを伝える  
→ 意識改革
- 京都大学の常勤の教員限定で配布



学内(そして**学外**でも)大反響!

学術研究支援室の存在と活動を  
周知することに大きく貢献



## (1) URA組織体制整備構想の進捗状況 (URA自身が企画・実施した業務事例③)

### ■京都大学URAネットワーク構築

- 部局訪問・説明会の実施(全研究科・研究所を訪問)
- 京都大学リサーチ・アドミニストレーション研究会の開催
- 部局等におけるURA類似職員との連携
- 研究資源情報の一元化(P-MAXプロジェクト)に向けた連携
- 京都大学URAリトリートの開催

### ■Pre-Award支援

- 申請支援 戦略的創造研究推進事業(CREST・さきがけ・ALCA・RISTEX)  
元素戦略プロジェクト(研究拠点形成型) → 本学より4領域中2領域がH24採択  
臨床研究中核病院整備事業 → H24 採択  
大学の世界展開力強化事業(ASEAN諸国等との交流支援) → H24 2件 採択  
科学研究費助成事業(特推・基盤S・新学術領域)  
テニュアトラック普及・定着事業 → H24 採択 (薬学研究科、人文科学研究所、経済学研究科)
- 科研費申請の教科書の作成・配布
- 研究費公募情報等の学内一元化(鎗 [京都大学外部資金公募情報サイト](#))
- 国際共同研究の企画支援

### ■Post-Award支援

- グローバルCOEプログラムの事後評価(事後評価報告書の作成支援)
- 元素戦略プロジェクトの運営(キックオフシンポジウムの開催、記者レクサポート)
- 大学の世界展開力強化事業の運営(臨時のプロジェクト事務局機能)
- 京都大学アカデミックデイ(「国民との科学・技術対話」)の企画・運営  
(参加準備・報告書作成をサポート)

## (2) URAの職務環境等整備の進捗状況 (職務環境等整備のための検討・取組、雇用状況)

### 組織整備

- 全学的な研究支援組織として整備
  - 京都大学学術研究支援室要項(総長裁定H24.3.6)
  - シニアURA 3名、URA 6名、専任事務職員 3名を配置
- 運営に関する重要事項等を審議
  - 学術研究支援室運営委員会要項(研究担当理事裁定H24.3.30)
- 実施業務等の最適化・適正化
  - 学術研究支援室評価委員会要項(運営委員会決定H25.1.29)

### 人事制度整備

- 専門業務職制度を創設(H21)
  - 中間職(教員と事務をつなぐ高度な専門的スキルを有する人材)を配置
  - 昇任制度を確立【専門業務職員 → 主任 → 上席(課長級) → 首席(部長級)】

### インフラ整備

- 十分な業務スペース、全部局URAが集える会議室
- 研究戦略支援ツールの導入
- e-Radの使用権限や科研費等競争的資金獲得情報の共有権限の付与

業務スペース = 135m<sup>2</sup>  
会議室 = 58m<sup>2</sup>

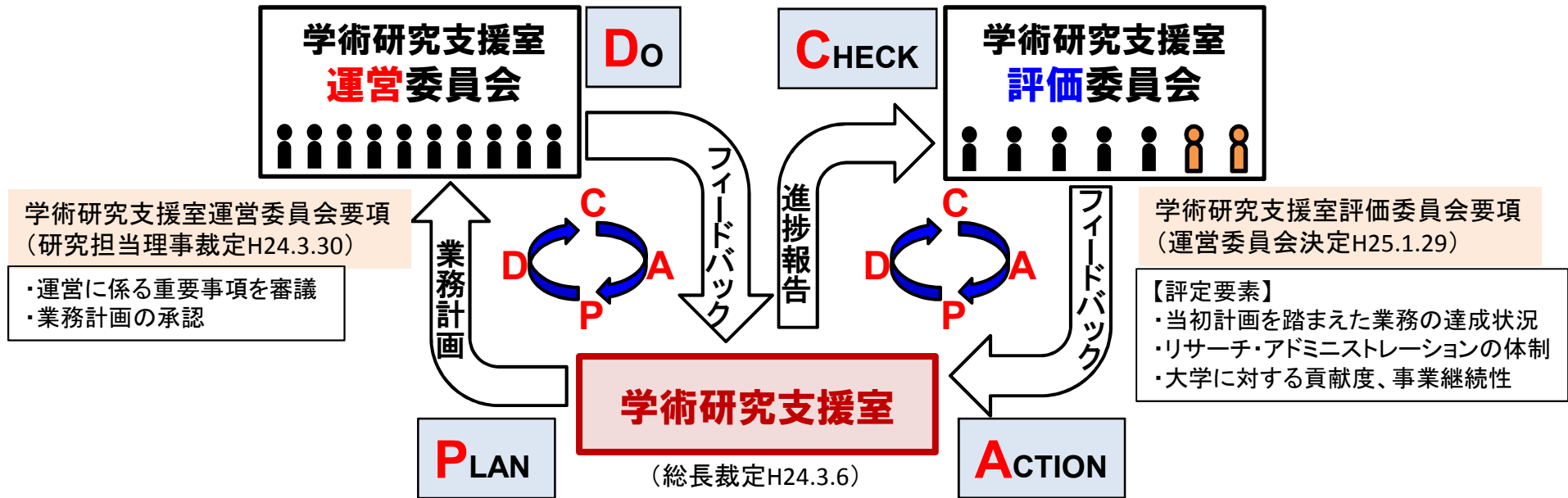




## (2) URAの職務環境等整備の進捗状況（業務達成目標及び評価方針の策定）

### <ミッション>

1. 支援のための基盤形成(URAネットワークの構築)
2. 研究活動のさらなる加速のための支援(研究者支援体制の整備)
3. 研究成果の社会への還元を支援(研究者と社会との双方向のコミュニケーションハブ)



<b>運営委員会</b>	構成	研究担当理事、総務・人事担当理事、部局長7名
	H24.5.11	平成24年度学術研究支援室の業務内容・業務計画の審議等
	H25.1.29	学術研究支援室評価委員会の設置・評価方針の策定等
	H25.3.25	平成25年度学術研究支援室の業務内容・業務計画の審議等
<b>評価委員会</b>	構成	総務・人事担当理事、産官学連携本部長、部局長2名、学外有識者2名
	H25.3.14	評価手順・方法および評価スケジュールの確認等
	H25.8まで	評価結果のとりまとめ

## (2) URAの職務環境等整備の進捗状況 (URAの能力開発プログラムの策定)

### 実施例:

- 京都大学国際URAシンポジウム開催(40機関、125名参加)
- Bristol大学URAを招いてのワークショップ開催
- 京都大学リサーチ・アドミニストレーション研究会開催
- NCURA (National Council of University Research Administrators)参加
- 国内の大学URA人材育成カリキュラム調査(北海道大、沖縄科技大等)
- URA研修・教育プログラム(早稲田大)、スキル標準策定事業(東京大)調査
- RA研究会、URAシンポジウム参加 ・トムソン・ロイター社 研究評価・分析研修

### 京大のニーズに適した独自プログラムを作成

平成25年8月に学内URA等向けに研修プログラムを実施



【競争的資金申請業務に係る知識・技術等を習得するためのカリキュラム】

科目	講師	研修内容
1 URA業務	学術研究支援室URA	URAの歴史および業務、本カリキュラムの全体像
2 政策・競争的資金制度	研究国際部担当者	各FAの動向、目的の理解、各資金制度の違い
3 調査分析の基礎	学術研究支援室URA	データベースを利用して目的のデータを取得
4 インタビュー	学外の専門家	申請希望者のニーズの把握等
5 研究プロジェクト	学術研究支援室URA	適切な研究計画、体制等
6 リスクマネジメント	研究国際部担当者	リスクマネジメントに係る規制・法律、学内体制
7 研究費	学術研究支援室URA	研究費に係るFA及び学内のルールを理解
8 特許	産官学連携本部担当者	発明・特許出願・特許権、特許公報の構成、特許電子図書館(IPDL)等
9 産学連携	産官学連携本部担当者	産と学の違い及び産学連携の概念、申請書に係る企業の事項等
10 契約	産官学連携本部担当者	民法における契約及び契約の概念、一般的な契約書、学内体制等
11 広報	学術研究支援室URA	本学の広報手段、学内体制
12 申請書の書き方	学術研究支援室URA	申請書の改善スキル
13 ヒアリング審査対策	学術研究支援室URA	ヒアリング審査への的確なアドバイス

### (3) URAシステム定着・運営の安定化 (URA組織体制の学内認知活動)

#### ● 学内全部局を訪問

- ▶ 全ての研究科・研究所等の教授会で学術研究支援室を説明



京都大学URA研究会



京都大学国際URAシンポジウム

#### ● 研究会・説明会の開催

- ▶ 京都大学URA研究会(平成24年度 5回)
- ▶ 京都大学国際URAシンポジウム(平成25年5月)
- ▶ 科研費学内公募説明会(平成24年9月)

#### ● KURAニュースレターを全教員へ配布

#### ● HPの開設

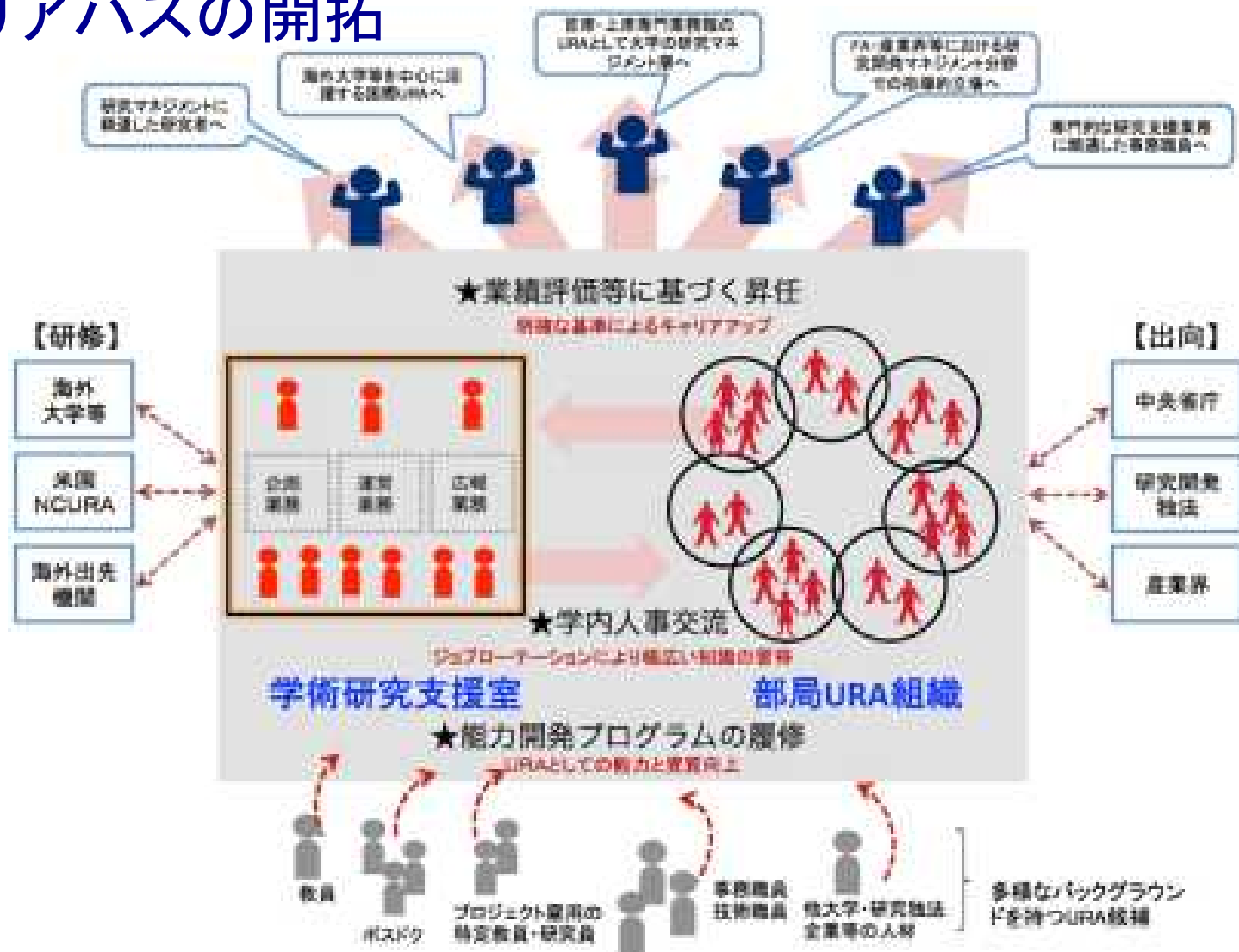
- ・ 支援内容や研究推進に役立つ情報を掲載
- ・ URAの顔、人を見せる(親近感の向上)



KURAニュースレター(年2回発行)



# 多様なキャリアパスの開拓

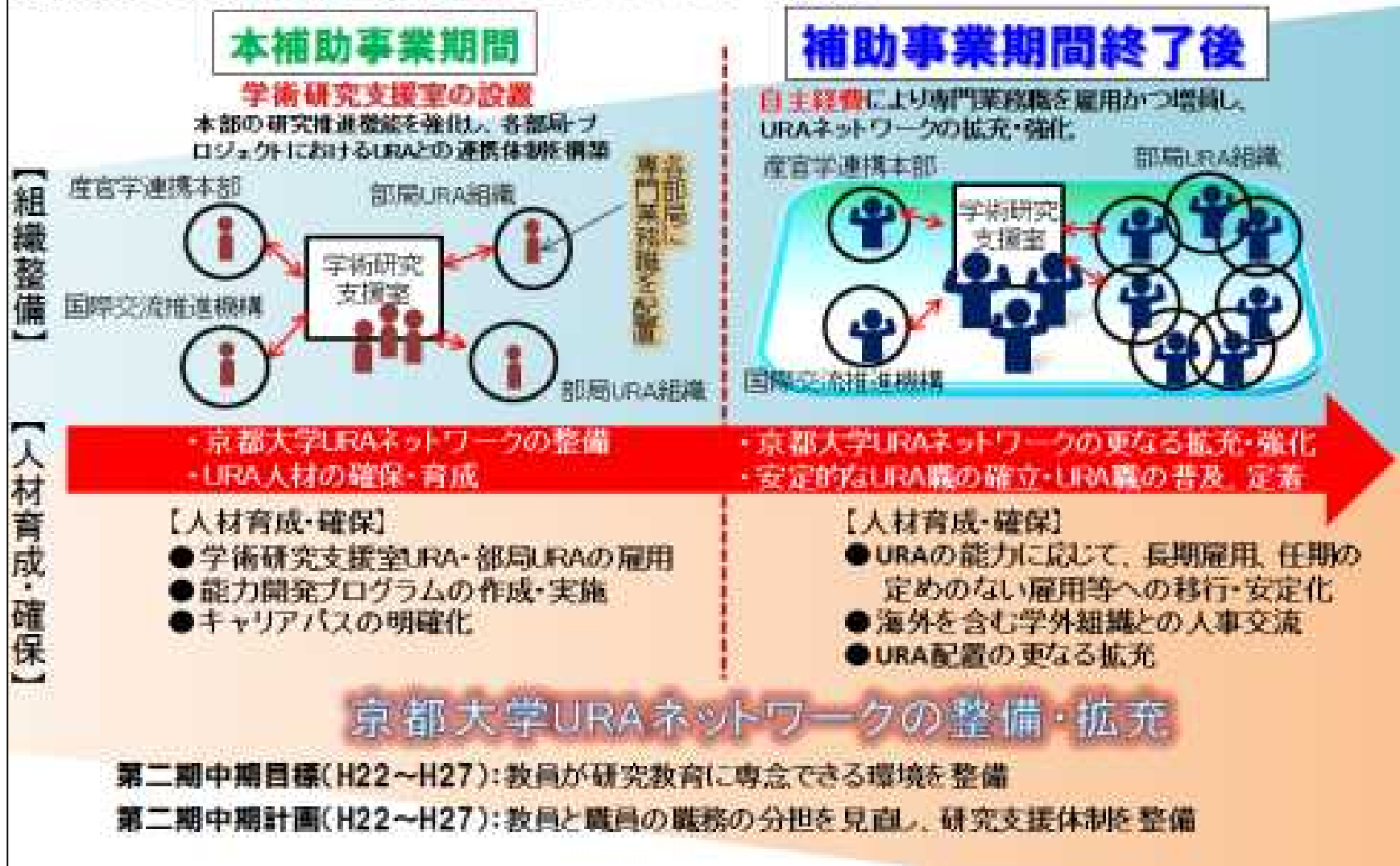


支援業務の多様性に対応、ふところの深いURAとして育成  
(URA自身のキャリアアップへ)



### (3) URAシステム定着・運営の安定化 (補助事業期間終了後における取組)

#### 京都大学のURA組織・人材のサステナビリティ構想



*KUURA*

## URA定着化に向けた大学のビジョン

### 研究支援事業の中核組織として明確化

学術研究支援室を中心とする「京都大学URAネットワーク」を構築

- ◆「教員が研究教育に専念できる環境を整備」(第二期中期目標)
- ◆「教員と職員の職務の分担を見直し、研究支援体制を整備」(第二期中期計画)
- ◆「リサーチ・アドミニストレーターの養成・配置の推進」(京都大学機能強化プラン)

### キャリアパスの明確化

課題

「URAの処遇に関わる評価方法は？」

短期的な成果のみを指標に業績評価するのではなく、  
中長期的な観点から能力や資質を適切に評価することが必須

なぜなら...、中長期的な研究戦略の企画・立案・実施まで担うことを期待！

### 補助事業終了後のURA組織維持

課題

自主経費による任期の定めのない雇用

- ◆関係役員間、人事労務関連部署と最終調整中



# 京都大学においてURA組織、URAシステムは

着実に定着し始めており、  
大学研究力の強化に貢献している。

**日本のURAシステムの先駆的モデルとなれ！**



農学研究科 縄田栄治教授  
JSPS「大学の世界展開力強化事業」申請支援・運営支援

「申請の支援は非常に助かりました。今までやってきたJSTや科研の大型申請と比較しても、  
**申請の準備は楽でした。できあがった申請書のクオリティも高かった**ですし、この手の申請書を作成するときは頻繁に他の研究者と連絡する必要がありますが、  
**それもURA室(学術研究支援室)にやってもらえて大変助かりました。」**



“...They helped me rebuild the structure of my presentation, guided my focus to the most relevant material, and coached me on potential reviewer questions. All in English! **Their advice and support gave me the confidence** to face the review committee, and deliver a captivating presentation.”

iPS細胞研究所 クヌート・ウォルツェン博士  
JST「戦略的創造研究推進事業(さきがけ)」  
申請支援

# 參考資料



# 国際共同研究推進：ミャンマー支援

## 学術研究支援室の企画によるミャンマー調査(3回)とワークショップ開催(2回)

### ●The 1<sup>st</sup> Engineering Workshop between Myanmar and Kyoto University

日時:2012年8月21日

場所:Myanmar Engineering Society, Yangon

参加者:100名(京大:8名)



### ●The 2<sup>nd</sup> Engineering Workshop between Myanmar and Kyoto University

日時:2013年3月12日

場所:Yangon Technological University, Yangon

参加者:150名(京大:18名)



JICA のミャンマー支援事業(H25年8月~H30:5年)

『ミャンマー工学教育拡充プロジェクト』土木工学担当

予算規模(予定):技術協力プロジェクト(10億)、無償資金供与(30億程度)

# 運営支援実績：元素戦略プロジェクト

## 「元素戦略研究拠点」 伴走型支援

文部科学省「元素戦略プロジェクト」  
平成24年度 京都大学 2 拠点採択

申請企画から拠点運営までを支援  
「伴走型」運営支援として試行

### ■大学本部組織との事務調整

- ・大学のユニットへの申請
- ・事務体制の構築  
(部局横断型のプロジェクトでは特に重要)

### ■運営・広報等活動のサポート

- ・ドメインの取得 (Web 環境整備)
- ・キックオフシンポの開催
- ・記者レク等のサポート

拠点専属URA的人材と連携・協働

(企画マネージャー/企画マネージャー補佐)



*URA*

# 広報支援実績：京都大学アカデミックデイ

## アウトリーチ活動に困っている研究者を「複数」支援

1. 全研究者を対象に広報支援のニーズを調査

反映

2. **双方向のアウトリーチ活動を行う場を提供**  
京都大学アカデミックデイを企画・運営（計3回）

- 複数の研究者を対象に支援  
→ 延べ200人以上の研究者が参加
- 一般来場者、延べ1000人以上来場
- メディア（新聞・テレビ）で紹介

3. 研究者の参加準備をサポート

**負担の軽減** ・事前説明会/ワークショップの開催

4. 研究者の報告書作成をサポート

**負担の軽減** ・参加したイベントの報告書を作成・提供  
・市民からのアンケート結果の報告



KUWA

# 公募情報検索サイト「鎗」

オープン以前

The screenshot shows a web browser window displaying a recruitment information search site. The page is heavily text-heavy and contains a large table with multiple columns and rows of data. The table appears to be a list of recruitment opportunities, with columns for various details such as department names, positions, and dates. The overall layout is complex and lacks a clear, organized structure, making it difficult for users to find specific information.

担当課毎に分散した情報…  
手間がかかる情報閲覧…

オープン後

The screenshot shows the updated version of the recruitment information search site. The page is much cleaner and more organized. It features a prominent navigation menu on the left side, with categories like '検索' (Search) and 'お知らせ' (Notice). The main content area displays search results in a structured, easy-to-read format, with clear headings and concise descriptions for each entry. The overall design is modern and user-friendly, making it much easier for users to find and view recruitment information.

1. 情報が一箇所に集約
2. 柔軟な検索システムの導入
3. ログ解析でニーズ分析が可能に

# その他の活動例



京都大学国際URAシンポジウム  
Bristol大URAによるワークショップ  
(2013年2月5日 京都大学百周年時計台記念館)



人材育成カリキュラムに関する検討会  
(沖縄科技大 外部研究資金セクションと)



トムソン・ロイター社における研修と  
研修成果報告発表会



京都大学URAリトリート  
(平成25年3月28日、29日)

URAおよびURA的業務を担っている職員が一同に  
会し、大学研究力強化に貢献すべく、全学URA共  
通のビジョンとミッションについて議論

*URA*